

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 55 号

感染症患者に対する偏見や差別の低減に向けた看護教育プログラムの開発

(Development of a nursing educational program to reduce discrimination and prejudice against patients with infectious diseases)

山内 麻江 (やまうち あさえ)

博士 (看護学)

#### 論文審査結果の要旨

本研究の目的は、感染症患者への偏見や差別を低減する看護教育プログラムを開発することである。第1研究では、日本の HIV 陽性者を対象とした無記名自記式ウェブ調査「HIV 陽性者のためのウェブ調査」のデータを活用し、HIV 陽性者の健康状態とスティグマの現状を分析した。第2研究では、看護学生の特性を質的に調査し、第1研究の結果と行動免疫説、接触理論、ソーシャルマーケティングの理論を組み合わせ、「HIV 感染症患者に対する偏見や差別の低減に向けた看護基礎教育用プログラム（以下教育プログラムとする）」を作成した。第3研究では、看護学生を対象に教育プログラムの効果を、介入前後の無記名自記式質問紙調査で評価した。

第1研究より、日本の HIV 陽性者の健康状態は向上しているが、依然としてスティグマが存在していることが明らかとなった。第2研究により、本教育プログラム受講対象者となる看護学生には、「差別を受けた感染症患者の体験談を聞く」学習ニーズがあること、無関心期から関心期にあることが明らかとなった。第3研究より、本教育プログラムの介入によって、研究対象者の HIV 感染症に関する知識の得点数中央値の有意な上昇がみられ ( $p < 0.001$ )、社会的距離項目数中央値の有意な増加がみられる ( $p < 0.001$ ) など、本教育プログラムは受講した看護学生の感染症に関する知識の習得、自身の偏見に対する認識の自覚、偏見や差別の低減に効果が得られた。

感染症関連スティグマは社会的問題に留まらず、患者の精神的・医学的健康に重要な影響を及ぼす。医療従事者でさえ感染症患者に対する偏見や差別の感情を抱くことがある中、看護基礎教育課程のうちに感染症患者への偏見や差別の低減につながる教育プログラムを開発した本論文は大変意義あるものである。よって、本論文は博士 (看護学) の学位を授与するに値するものと判定した。